

## 第1課 考えてみよう

### (1) 頭・髪

《 頭を抱える 》: 悩みや心配事などがあって、どうすればいいか、考え込むこと。

この文章では、「紙の本からKindleや iPad へ乗り換える人」が多くなったことについて、どうすればいいかわからず、困っている様子を表しています。

《 頭打ち 》: ある物事が限界に達してしまい、それ以上には向上しない状態になること。

この文章では、「地域単位でのコージェネの利用」が、伸び悩んでいると言っています。

《 頭角を現す 》: 才能が人より優れて目立ってきたこと。

この文章では、ハンガリーのオルバン首相がまだ若かったころ、「共産主義からの脱却」を訴えて力を発揮し、目立つ存在になっていたと言っています。

《 後ろ髪を引かれる 》: 心残りがして、思いがなかなか断ち切れないこと。

この文章では、宮舘氏が（2011年の東日本大震災で被災した岩手県は）「復旧復興」がまだ途中であり、「正念場を迎えるときに退任すること」になったことについて、心残りで気になると言っています。

《 間髪をいれず 》: 間に髪の毛が1本入る隙間もないほど、少しの時間も置かないこと。

この文章では、米国メディアからの質問に対して、即答した様子を表しています。

### (2) 顔

《 顔を立てる 》: 相手の体面が傷つかないようにすること。

この文章では、「2030年の原発の割合」について議論する中で、脱原発派の立場を考慮して35%を外したものの、同時に原発推進派の意向にも配慮して、35%という割合を『参考ケース』として扱う」という提案をしたと言っています。

《 顔色をうかがう 》: 相手の顔の表情を見るという意味から変わって、その人の気持ちや考えを読み取ろうとすること。

この文章では、この内閣には政治家がおらず、選挙の心配がないため、票を得るために国民の機嫌をうかがう必要がないと言っています。

### (3) 目

《 一目置く 》: 相手が優れていることを認めること。

この文章では、今年で10回目となった「国産ワインコンクール」がワイン業界からもその意義を認められるようになったと言っています。

《 目の上のこぶ 》: 目の上にこぶが出来ると、物を見るときにじゃまになることから、じゃまになったり、見ると不愉快になったりするもののこと。

この文章では、「若者から多くの支持を集める自民党のY議員」が、野党の民主党にとっては、じゃまな存在だと言っています。

### (4) 耳

《 耳が痛い 》: 他人の発言が自分の弱点をついているので聞くのが辛いということ。

この文章では、消費者から寄せられる「苦情や厳しい意見」は、聞くのは辛いものであるけれど、企業にとっては有益だと言っています。

《 聞く耳を持たない 》: 相手の発言を聞く気がない様子。

この文章では、私（ドコモの大星社長）が「データ通信を収益の柱に育てる方針」について、社内のいろいろな場で言及した際に、多くの幹部が相手にせず、まともに聞こうとしなかった様子を表しています。

### (5) 鼻

《 鼻を明かす 》: 相手が油断している間に、相手の予期しないことをして驚かせること。

この文章では、N選手が総合格闘技に転向することについて、「そんなに甘い世界ではない」と批判的な人々に対して、結果を出して驚かせてやりたいと言っています。

《 出端（出鼻）をくじく 》: 相手が何かを始めようと意気込んでいるところや、何かをし始めたところをじゃますること。

この文章では、和平協議が行われる予定だったのに、当日S国の首相が突然欠席をしたことによって、和平協議への意気込みが損なわれてしまったと言っています。

### (6) 口・歯・喉

《 開いた口がふさがらない 》: 驚きあきれて何も言えなくなっている様子。

この文章では、大量の顧客情報を流出させてしまったN社の対応について、世間の人々があきれている様子を表しています。

《 歯に衣着せぬ 》: 相手の感情を気にせず思ったままのことを言うこと。

この文章では、タレントのA氏が、遠慮せずはっきりものを言う話しぶりで人気を集めていると言っています。

《 のどから手が出る 》: 抑えられないほど、欲しいと思う気持ちが強い様子。

この文章では、欧米などの軍事研究所は、JAXA が持つ遠隔操作技術をぜひ手に入れたいはずだと言っています。

《 あうんの呼吸 》: 二人以上で一つのことをするとき、お互いの気持ちや行動が絶妙なタイミングで一致すること。

この文章では、「定価」がなくなったことで、「定価」からの値引き率の高さをうたって集客していたスーパーが困ってしまったものの、メーカーがすぐに対応して「想定販売価格」を決め、スーパーがそれをもとに割引表示ができるようになったと言っています。

## (7) 首

《 首を突っ込む 》: ある物事に関心・興味をもって関わること。

この文章では、政治が教育に「必要以上に」関係するのはよくないのではないかと言っています。

《 首が回らない 》: 支払わなければならないお金が多くてやりくりがつかない様子。

この文章では、日本は国の予算 90 兆円のうち、22 兆円が借金返済に充てられているため、さらに借金が膨らめば、いずれ国の財政が立ち行かなくなるのは明らかだと言っています。

## (8) 肩

《 肩たたき 》: 相手の肩を軽くたたいて、何かを頼むこと。特に、退職を勧告すること。

この文章では、希望退職に応募せず（実質的には退職勧告を拒否して）会社に残った同僚が嫌がらせを受けている、と言っています。

《 肩身が狭い 》: 自分がその場にふさわしくないという気持ちから、居ごちの悪さを感じる様子。

この文章では、節電のため、省エネで需要が急増している LED に比べて、電気代がかかる白熱電球は、売り場で居ごちが悪そうに見えたと言っています。

《 双肩にかかる 》: 左右の肩に責任や義務などの負担を負うこと。

この文章では、金正恩氏は、住民の生活と経済を立て直し、「国際的な孤立から脱する」という、重い責務を背負っていると言っています。

## (9) 手

《 手のひらを返す 》: 何かをきっかけに、言葉や態度などが、それまでとは急に変わる様子。この文章では、バブル期には「一方的にお金を振り込んできた」銀行が、バブル崩壊後は態度を一変し、お金を「まったく貸してくれなくなった」と言っています。

《 手塩にかける 》: いろいろと世話をして大切に育てること。

この文章では、生産者が丁寧に世話をして大切に育てたシクラメンが 50 品種にも及ぶと言っています。

## (10) 腹・肝・腑

《 私腹を肥やす 》: 公的な地位や立場を利用して、自分の財産をふやすこと。

この文章では、モスクワの行政担当者がその立場を利用して、「意図的に嫌がらせをする」ことによって、業者などから金を得るような事例があると言っています。

《 肝に銘じる 》: 心に深くきざみつけて忘れないこと。

この文章では、ある市の市長選に勝利した山本氏は「市民の厳しい目があること」を忘れず常に意識し、「厳しく市政運営」していくと言っています。

《 腑に落ちない 》: 納得できないこと。

この文章では、自分が買った製品がすぐ後で値下がりするのを見ると、納得できない気持ちになると言っています。

## (11) 腰

《 重い腰を上げる 》: 座ったままなかなか立ち上がらろうとしなかった人が、ようやく立ち上がること。そこから変わって、なかなか行動を起こそうとしなかった人や団体が、ようやく行動を起こすこと。

この文章では、全国に発信できるメディアの役割の一つは、国がなかなか取り組もうとしないことについて報道して、国を動かすことだと言っています。

《 本腰を入れる 》: 本気になって、真剣になって取り組むこと。

この文章では、東日本大震災後に多くなっている国内の工事が落ち着いていくことを想定し、日本のゼネコンがアジアの「大型インフラ事業の受注」に本格的に取り組んでいると言っています。

## (12) 足

《 揚げ足を取る 》: 人の言いまちがいなどについて非難したり、からかったりすること。この文章では、野党が、閣僚の失言を責めて辞めさせることばかり考えている、と言っています。

《 足並みをそろえる 》: 二人以上の人が歩くとき、歩くペースや歩幅を相手と合わせること。そこから変わって、考えや行動を同じにすること。

この文章では、民主党と自民党が、消費増税という点については、考え方を一致させているが、その他の点では方針の違いが目立っていると言っています。

## 第2課 考えてみよう

### (1) 食べ物・飲み物

《 冷や飯を食う 》: 冷たいご飯を食べさせられるということから、つまり、冷遇されること。この文章では、日本海沿岸東北道（日沿道）の建設推進派は、これまでの政権下で冷遇され、やっと一部延伸区間が開通したものの、全線開通の見通しは立っていないと言っています。

《 手前味噌 》: 自分で作った味噌の出来栄をほめること。そこから変わって、自分で自分のことや自分が作ったものをほめ、自慢すること。

この文章では、自分の会社で作ったボールペンを自慢することになるが、と前置きして、「他社には真似できない出来栄だ」としています。

《 お茶を濁す 》: いい加減なことを言ったり、行ったりしてその場を切り抜けること。その場をごまかすこと。

この文章では、自動車にかかる税について、1年前の税制改正論議では抜本的な議論をすることなく「重量税の一部減税とエコカー減税の手直し、補正予算によるエコカー補助金の復活」という、その場を取り繕うような方法で済ませた、と言っています。

### (2) 生き物

《 雀の涙 》: 仮に、体の小さい雀が涙を流すとしたら、その量はとても少ないだろうと考えられることから、非常に少ないこと。

この文章では、会社の業績悪化のため、もらえる退職金は非常に少ないと思われたと言っています。

### (3) 自然

《 一石を投じる 》: 投げた石が水に落ちると徐々に波紋が広がることから、周囲に反響を呼ぶような問題を投げかけること。

この文章では、APEC で 54 品目の関税引き下げに合意したことが、これまで妥結できなかった WTO での関税引き下げの議論に影響するのではないかとっています。

《 氷山の一角 》: 海面上に見える氷山は、実は海中に隠れている氷山全体のごく一部にすぎない、ということから、表面に現れている部分は、あるもの（よくないもの）全体のほんの一部分であること。

この文章では、中国や台湾で逮捕された 3490 人以外にも、もっと多くの人々が海賊版の流通に関わっているだろうとっています。

《 峠を越す/越える 》: 山を登って、最も高いところを越えること。そこから変わって、物事の最も危険な状況を脱すること。

この文章では、「津軽蓬田トンネル」の工事のうち、12 本のトンネル掘削という最も大変な工事が完了した、とっています。

《 砂上の楼閣 》: 砂の上に建てられたビルのこと。そこから変わって、立派に見えても基礎がしっかりしていないために長く維持できない物事。また、実現できない物事のこと。

この文章では、月面着陸に成功した中国に対して、「はやぶさの成功に酔ったまま」の日本の宇宙開発に対する姿勢を、「砂上の楼閣（危うい状態）に見える」と批判しています。

### (4) その他生活に関わりのあるもの

《 財布のひもが固い 》: なかなか財布を開かないという意味で、簡単にはお金を使わない様子。

この文章では、給料が減って家計が苦しくなったことで、簡単にはお金を使わなくなったとっています。

《 のれんに腕押し 》: 「のれん」は店の入り口にかける布のこと。「のれん」を押しても手ごたえがないため、そこから変わって、何かを行っても反応や手ごたえがないこと。

この文章では、県知事が打ち出した政策に対して、市民は厳しく批判したが、市民の意見が聞き入れられなかったとっています。

《 青写真を描く 》: 設計図によく青写真が使用されたことから、おおよその計画や未来の構想を描くこと。

この文章では、タイ、ベトナムからミャンマーへ、そしていずれはインドへとつながる「大経済圏」を作り、バンコクをその中核にするという構想を描けると言っています。

《 お払い箱になる 》: 不用品として廃棄されること。また、不必要な人材として勤め先を辞めさせられること。

この文章では、米メジャーリーグの弱小球団が、他球団で解雇されそうな選手を見つけて低予算で雇ったと言っています。

《 幕を下ろす 》: 演劇が終わると舞台の幕を下ろすことから、物事を終わりにすること。この文章では、約 60 年の歴史のある加賀谷書店本店が閉店することを表しています。

《 舵を切る 》: 「舵」は、船の進行方向を決めるための装置。「舵を切る」と船の進む方向が変わる。そこから変わって、組織において方針を大きく変更すること。この文章では、学校での授業は週 5 日にし、週末はゆっくり過ごす「ゆとり」教育から、「学力」重視へ、国の方針が変わり始めたと言っています。

《 手綱を緩める 》: 手綱は馬を操る道具。「手綱を緩める」と、馬が勝手に行動できるようになる。そこから変わって、相手が勝手なことをしないように定めていた規制などを以前よりもゆるやかにすること。

この文章では、ドイツ国民の多くは、ギリシャが緊縮財政をきちんと行わないなら、ドイツが行っている支援を止めるべきだと考えている、と言っています。

### 第3課 考えてみよう

#### 1. スポーツ・格闘技に関連する語彙・表現

##### (1) 野球

《 続投(する) 》: 投手が交代しないで投げ続けること。そこから変わって、今までの役目を続けること。

この文章では、自民党の安倍総裁は、石破茂氏を引き続き幹事長に任命する方針を決定したと言っています。

《 登板（する） 》：投手として試合に出ること。投手がマウンドに立つこと。そこから変わって、ある役割を担当する人物として登場すること。

この文章では、10年以上もキヤノンの社長を務めていた御手洗富士夫会長が、再び社長に就任することになったと言っています。

《 空振り（する） 》：振ったバットがボールに当たらないこと。そこから変わって、物事が予想や期待の通りにならないこと。

この文章では、首相が知事会議で、沖縄の負担軽減のため、オスプレイ（飛行機）の訓練を本土でも行うよう理解を求めたが、出席者の反応は悪く、思惑通りには行かなかったと言っています。

《 決定打 》：勝敗の決め手となる安打（hit）のこと。そこから変わって、何か（特に勝敗）を決める要因になった出来事や行動のこと。

この文章では、各地で行われている「地域おこし」の取り組みの内容が、どの地域でも似ていて、素晴らしい、とは言えない状況だと言っています。

《 直球勝負（する） 》：直球（ストレート）を投げてバッターを打ち取ろうとすること。そこから変わって、正々堂々と物事に取り組むこと。

この文章では、樺細工の伝統的な技法を使って作った製品を東京や海外で売り出そうと決めた様子を表しています。

## （2）相撲

《 軍配を上げる/が上がる 》：「軍配」という道具で、勝ち力士を示すこと。そこから変わって、勝者や優れたものを判定して示すこと。

この文章では、増税は「景気を冷やして結局は増税を増やせなくなる」という主張と、「財政赤字の放置が景気を冷やす」という考え方があるが、筆者は後者のほうを支持すると言っています。

《 土俵際 》：「土俵」は、相撲が行われる場所のこと。「土俵際」はその「際」、つまり土俵の端のこと。土俵から体の一部が出ると負けになる。そこから変わって、物事（特に勝ち負け）が決まる分かれ目のこと。

この文章では、小淵優子経済産業相が支持者を対象に毎年行ってきた「観劇会」に関して、不透明な収支が明らかとなり、責任が追及され辞任へと追い込まれつつある様子を表しています。

《 勇み足 》: 土俵際まで相手を追い詰めながら、勢い余って自分の足を先に土俵の外に出して負けてしまうこと。そこから変わって、調子にのってやりすぎて失敗すること。

この文章では、iPhone 販売競争で一步先を行こうとしたソフトバンクが、旧機種の下取りサービスを行ったことが「古物営業法違反」に該当し、警視庁に指導されたことを、拙速な対応で失敗したと言っています。

《 肩すかし 》: 相撲で、前進する相手を自分の方に引き入れて体を開きながら相手の肩をたたき、倒す技。そこから変わって、意気込んで何かを行おうとした相手の氣勢をそぐこと。

この文章では、俳優の武井咲がグッチと「パトロネージ契約」を結んだと聞いた芸能記者は、グッチの広告などに出るのかと期待したが、「ショー見学やイベント出席をする」だけだとわかり、拍子抜けした様子を表しています。

《 ガチンコ 》: 相撲に関する隠語で、真剣勝負のこと。

この文章では、会議中はパソコンやタブレットなどを見るのではなく、直接顔を見て「意見や思いをぶつけあったり交換しあったり」し、真剣に議論すべきだと言っています。

## 2. 武将・戦いに関連する語彙・表現

《 両刃の剣 》: 「両刃の剣」は、両側に刃のついた剣のこと。相手を切ろうとして振り上げると、自分をも傷つける恐れがある。そこから変わって、有利にはたらく可能性がある一方で、損害をもたらす可能性もある物事のこと。

この文章では、「インフレ目標の導入」について、「将来の物価や金利について安心できれば、個人や企業がお金を使うようになる」というメリットが考えられる反面、「中央銀行の政策を縛る」というデメリットも考えられると言っています。

《 矛先を向ける 》: 「矛」は両刃の剣に長い柄をつけた昔の武器。戦う相手に矛の先を向けること。そこから変わって、攻撃や批判を相手に向けること。

この文章では、「下請け企業に対する発注元企業の要求」があまりに非情で憤りを覚えてしまうが、発注元の経営の厳しさもわかるために、その怒りをぶつける先がない、と言っています。

《 矛を収める 》: 矛をしまって、戦いをやめること。そこから変わって、攻撃や批判をやめること。

この文章では、安倍首相が主張する集団的自衛権の行使については、党内に慎重論があったが、首相が集団的自衛権の行使を必要最小限とする「限定容認論」を打ち出すことによって、慎重派が「反対」を主張するのをやめやすくする雰囲気を作ったと言っています。

《 矢面に立つ 》:「矢面」は、戦場で敵の矢が飛んでくる正面のこと。そこから変わって、  
攻撃や批判を受ける立場（場所）に立つこと。

この文章では、国民に増税という負担を求めるからには、首相は非難を受ける覚悟で、「国民に見える形で」しっかり議論すべきだと言っています。

《 後ろ盾 》: 背後を守る盾のこと。そこから変わって、陰で支援をしたり守ってくれたり  
する人や団体、権力などのこと。

この文章では、北朝鮮の金正日総書記の死去について各国首脳から弔電が寄せられ、金正恩氏が返電を送ったものの、最も北朝鮮に近く、バックアップしている立場である中国は返電先として報じられなかったと言っています。

《 錦の御旗 》: 官軍（天皇側の軍）のしるしである旗。そこから変わって、行為や主張を  
権威付けし、正当化する物事や意見などのこと。

この文章では、今までは、電力業界が「安定した電力供給」が最重要課題であると自身の行為を正当化し、新規参入を認めずに地域独占を続けてきたと言っています。

《 布陣 》: 戦いに備えて兵士を配置すること。またはその配置した兵士のこと。そこから  
変わって、スポーツのチームや政府、会社などの組織における人員配置のこと。

この文章では、オリンパスの新体制案では、「11人の取締役のうち、過半数の6人が会社から独立した社外役員。常勤5人の役員も、会長と1人が主力取引銀行の出身者」であり、株主等にも信頼してもらえる体制（人選）だと言っています。

《 先陣を切る 》: 敵に最初に切り込んでいくこと。そこから変わって、まだ行われていな  
い何かを、初めに行うこと。

この文章では、少子高齢化が進む日本では、「年金支給開始年齢の引き上げ」なども検討されており、老後への不安が高まっている中で、日本が今後どのような社会になるのか、30-50代より先に、60代となっている団塊の世代がまず体験することになると言っています。

《 背水の陣 》: 後ろが川などで逃げられないため、兵士が必死で戦うしかないような状況。  
そこから変わって、必死で行動しなければいけない状況で、全力で何か  
に取り組むこと。

この文章では、中国産タオルが急増し国産のタオルが押しやられている中で、なんとか対抗するために、今治のタオルメーカーが必死の覚悟で力を合わせて頑張ったと言っています。

《 反旗を翻す 》: 仕えている人に背くこと。そこから変わって、所属している組織やその組織の中で立場が上の者に逆らったり、裏切ったりすること。

この文章では、消費税増税をめぐって慎重な立場をとっている自民党の若手議員が勉強会を立ち上げ、増税に前向きな、党の執行部や長老議員に対抗（反論）する姿勢を見せていると言っています。

《 牙城 》: 城の中で大将のいるところ。そこから変わって、ある組織・勢力の本拠地や力を発揮している場所（市場など）のこと。

この文章では、トヨタにとってハイブリッド車はその販売戦略の中核だが、そのハイブリッド車の市場にも現代（現代自動車）米国法人は進出しようとしていると言っています。